



# 《言葉の習得編》

## ～頭のよい子は「ことば」で育つ～

マタニティーレッスン

お茶の水女子大学名誉教授 外山 滋比古

### あすへの話題

少子化対策としていろいろな子育て支援が考えられているが、どうも細かすぎ未梢的なように思われる。未曾有の少子化なのだから画期的な新しい考えが求められる。

だいたい、今の教育制度そのものが古いのである。年齢が上がるにつれて重要なことを教える建前をとっている。小学校から中、高、大学とだんだん高くなるのを名前でもあらわす。幼稚園で教えることがはっきりせず、それ以前は家庭に委ねられていてよくわからない。

つまり、学習者の年齢に合わせて多くのことを教える構造で、逆ピラミッド型(▽)である。これをひっくり返してピラミッド型(△)に変えなくてはいけない。

もともと習得能力の高い生まれ直後、なにもしないのは間違っている。もつとも大事な教育ができなくてはいけない。ごく幼い子はすばらしい力をもっている。何ひとつ知らずに生まれてくるのに、三年もしないでことばが使えないようになる。二十歳では考えられない。

最大能力のあるゼロ歳児を基底とし大学を頂点とするピラミッド型教育は自然の理にもかなっていないと思われる。そういう考えに基づいた教育によって新人類を育てることもかろうである。

問題は最初の先生になる人をどうしたら得られるかである。かつて、私はマタニティー・スクール構想を発表したことがある。こどもができたとかった人に短期集中の勉強してもらおうのである。群馬県のある市が関心をもって検討したが、具体的には至らなかった。そのほか、まったく反響がな

平成 22 年 1 月 12 日の日本経済新聞夕刊に上記の文章が掲載されていて驚きました。なぜかという、勁草学舎がこれから取り組もうと予定している内容がそのまま述べられていたからです。

外山先生の著書には、言葉や思考の大切さについて書かれたものが数多くありますが、「初めに言葉ありき」と題された本に、“お母さんたるものは、子どもが生まれたら、その瞬間から教育は始まるのだということを知っていなければならない。お母さんがまずしなければならないことは、赤ん坊が生まれたらその瞬間から話しかけることである。それも、そのとき赤ん坊が見たり、きいたり、経験しているであろうことを話してやることが大事だ。あまり関係のないことを話してはダメ”と書かれています。

勁草学舎の国語担当から、「A君はあまりに言葉を知らない。普段家庭内で使うであろうと思われる言葉なのに」と聞かされました。A君は大学受験生です。しかしこれはA君だけの問題ではなく、普通に生徒たちに接して感じることでもあります。言葉の辞書的意味は知っていても、その言葉がどういう「事」を言わんとしているのか、趣旨が伝わらないのです。ところがこ

ういう実態は、テストの結果とは必ずしも一致するものではないようで、真の国語力の判断を難しくさせています。言語は精神的エネルギーの蓄積装置ですから、言葉を知らないことは、精神的脆弱さに繋がることとなります。





勁草学舎ではこのことを重く捉え、言葉について子育て準備講座として、「言葉の習得編」を下記の通り用意しました。外山滋比古著「頭のよい子は『ことば』で育つ」を使って一緒に学びましょう。

対象は、①これからお母さんになられる方、②現在子育て中のご両親、③思春期の子どもに真剣なやりとりを求められるご両親、です。

## 記

- ① こどもの心はお母さんの愛のことばでつくられる
- ② 知能、感性をはぐくむことばと、知能を育てることば
- ③ こどものうちによい耳を育てるのは一生の得
- ④ こどもの心と日本語を磨く、ことばの習慣
- ⑤ 人間らしい知恵あることば、美しいことばの話し方
- ⑥ 日本人の奥ゆかしさ、ていねいさをあらわす日本語独特の言い方
- ⑦ 人間関係の上手な人は、ことば選びのすぐれた人



日 時 土曜日コース 18:30~20:30  
①3/20 ②3/27 ③4/3 ④4/10 ⑤4/17 ⑥4/24 ⑦5/8

月曜日コース 10:30~12:30  
① 4/19 ② 4/26 ③5/10 ④5/17 ⑤5/31 ⑥6/7 ⑦6/21

受講料 全6回 17,640円+本代 571円

○子どもたちをことばの貧困から守りたいとの強い意向から、日本適応指導教育研究所（理事長 苺草国光）が受講料半額を支援します。

会 場 勁草学舎 3階セミナールーム

申 込 お電話でお申し込みください。

お問合せ・お申込窓口：勁草学舎 〒110-0015 東京都台東区東上野 3-9-5 育伸社第2ビル



TEL : 03-3834-5576 まで